

## 教育改革の流れと現場での実践例の紹介

### 1 教育改革の背景とポイント

#### ●教育改革の流れとしておさえておくべき会議

①教育再生実行会議（内閣総理大臣の諮問機関）

②高大接続システム改革会議（文部科学省高大接続改革プロジェクトチーム）

③中央教育審議会

教育課程企画特別部会

※教育課程企画特別部会における論点整理について（報告） 平成27年8月26日

※現在次期学習指導要領改訂に向けた各ワーキンググループが開催中

#### ●教育改革の背景としておさえておきたいこと

①社会として

生産年齢人口推移

働き手が半分に減ってしまう。

成長＝一人一人の生産性×労働力人口

→一人一人の生産性を向上させるしかない。

②個人として

未来の仕事のイメージ

・子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在しない職業に就く

・今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。

・2030年までには、週15時間程度働けば済むようになる。

→現在の多くの職業の多くは、今後なくなっていく。

#### ●大きな流れとしての三位一体改革

①大学教育改革

②高校教育改革

③大学入試改革

※社会で活躍できる人材を育成するには、何をどう変えればよいか？

#### ●大学教育改革

3つの「ポリシー」の明確化

アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

#### ●大学入試改革

センター試験は2019年度で終了。

2020年度より、新試験開始。

①高等学校基礎学力テスト

②大学入学希望者学力評価テスト

※それぞれのテストの役割が異なる。

## ●次期学習指導要領改訂に向けておさえておくべきポイント

### ①学力の3要素

- ・個別の知識・技能
- ・思考力・判断力・表現力
- ・主体的に学習する態度

※主体性を「学力」として位置付けている。それは「教えられる」ものか？また、「測定できる」ものか？

### ②3つの柱

- ・「何を知っているか、何ができるか」  
個別の知識・技能
- ・「知っていること・できることをどう使うか」  
思考力・判断力・表現力等
- ・「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」  
主体的に学習する態度（教育の基本である人格の完成と生きる力の育成という根底）

※知識・技能の「習得」は、「活用」することが前提。

### ③3つの学び

上記①、②を具体的な授業でどう指導するか。

#### ・「深い学び」

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びが実現できているかどうか。

学習者にとって学ぶ知識が体系化されることが肝心。

学習者が既に学んできたことと新たに学ぶことをつなげ、体系化された知識として保持し、教科としての一貫した見方を身に付ける中で、それを問題解決過程に使うということを目指す。

いたずらに知識の量を増やすのではなく、教えるべき知識を精選し、要となる中核的な知識を原理的な理解へと結びつけ、体系化がそういった原理との関係の中でなされるような指導が必要となる。

様々な課題において共通する原理に基づく説明することを通して、知識の体系化を図る。

#### ・「対話的な学び」

教材・対象を前にしての関わり。

学習者である子どもが教材を前にその探究と理解に向かい、それを助ける教師がいて、また仲間同士がいる中で、ともに考える。

#### ・「主体的な学び」

積極的に意欲を持って学習に取り組むことから始まり、難しい点に出会ってもすぐにあきらめることなく、様々な角度から考え、解決法を工夫し、課題をやり遂げていく。

他の学習者や教師と考えの共有を図りつつ、自分の間違いを捉え、また自分と他者の良さを自覚し、多面的な理解を深めていく。

意欲から意志へ、そして自覚する学習者へと育てていく。

※無藤隆先生の資料より抜粋・引用しています。

## 2 ビジネス界との連携可能性

### ●現状の教育現場とビジネスの現場との相違

- ・「答え」があるかどうか
- ・「プロジェクト」があるかどうか

→ビジネスの現場の発想や方法を体験することで「教えられない能力」を伝えられる可能性

※今後、年収200万ではなく年収500万で生きていくにはどんな資質・能力が必要か？

### ●授業デザインのヒント

- ・「目的」の明確化
- ・「課題発見力」「課題解決力」という軸
- ・「主体性」「協働性」「多様性」という軸
- ・「評価」の方法の明確化

→授業の具体的な形が見えてくる。

※「手段の目的化」を避ける。

※授業者、学習者がともにPDCAサイクルを回せるようなしかけが必要。

## 3 授業実践の紹介

### ●『学び合い』の基本的な考え方

- ・「学校は、多様な人と折り合いをつけて自らの課題を達成する経験を通して、その有効性を実感し、より多くの人が自分の同僚であることを学ぶ場」であるという学校観
- ・「子どもたちは有能である」という子ども観
- ・「教師の仕事は、目標の設定、評価、環境の整備で、教授（子どもから見れば学習）は子どもに任せるべきだ」という授業観
- ・上記を支える「一人も見捨てない」という願い

### ●授業における教師の仕事

- ・教師の仕事は、「目標の設定」、「教授（子どもから見れば学習）」、「評価」、「環境の整備」の4つ。
- ・目標の設定、評価、環境の整備が仕事の中心である。
- ・教授（子どもから見れば学習）は子どもに任せる部分が多い。

### ●プリントの構成

「タイトル～サブタイトル」 単元名と重要ポイント

「目的」 今日の授業で全員に達成してほしいと思っていること

「課題」 授業の目的を達成するために手段。多くの生徒は課題を順番にこなす。

「発展課題」 単元の内容に関係した発展的な課題。知識の点をつなげることが目的。

「参考資料」 教科書の内容を補う内容。あくまでも補助的に使用。

### ●課題に取り組む時間

- ・最終的に「目的」が達成されるように取り組む。
- ・教科書が中心だが、必要に応じて資料集などその他の資料も利用可能。
- ・携帯・スマホ等での検索も可能。
- ・自由に席を移動して相談しながら行うことも可能。
- ・教員は机間巡視をしながら進行度等をおおまかに確認。必要に応じて声かけ。

### ●内発的動機付けを高めるには

- ・有能感＝できる喜び
- ・自己決定感＝自分で選べる喜び
- ・他者との関係性＝他者につながる喜び

### ●思考のための材料

- ・「生徒に任せる授業」は従来の「自習」と何が違うのか？
- ・クリエイティブな人材を育成するためにはどのようなしかけが必要か？（「主体的・協働的学び」が実現していればそれでよいのか？）
- ・「思考」のために「知識」は必要か？それは、いつ、どのように、どの程度与えられるべきか？